

実践事例②【「わたしたちの体育」を活用した実践例】

米子市器械運動グループ マット運動の実践を通して

米子市 器械運動グループ

文責 米子市立福米西小学校 伊田文汰

米子市立福生西小学校 藤原育大

1 はじめに

本年度は、昨年度の就将小学校の実践をもとに、器械運動グループ（福米西小・福米東小・福生西小・福生東小・加茂小・河崎小）で、個別最適かつ協働的な学びにつながる「わたしたちの体育」とICTの活用の研究に取り組んだ。

県の研究概要に挙げられているように、わたしたちの体育とICTのハイブリッドと、ふり返り板の活用に加え、「場の設定」と「単元計画」を中心にマット運動（中・高）の研究を進めた。

2 準教科書「わたしたちの体育」とICTの活用計画

【わたしたちの体育】

- ・技の構成図を見て、各部分の動きのポイントをおさえる。
- ・習得した技にチェックをつけたり、次の目標を明確にしたりする。
- ・吹き出しの言葉や、技のポイントとして書かれている言葉を活用して、協働的な学びをさせたい。
- ・場の設定や、器具の使い方の挿絵を参考にして、運動量の確保かつ易しい場づくりをする。

【ICT】

- ・見本の動きの動画を見せる。自身の動きを確認させる。（コマ送りにして静止画としても活用）
- ・振り返る際の視点の共有や、時間毎の自分の変容を一目で捉えやすくする。



3 研究の実際（単元計画や、場の設定については右のQRを読み込んでください。）

撮影した動きのできばえを確認するために、動きのポイントのチェックリストを活用した。また、協働的な学びにするための共通言語としての役割も担えるように、声掛けの例としても使用した。



撮影した動きとポイントの比較



ふり返り板（ICT）を用いての話し合い
（チームでの練習計画）



（※鳥教アカウントのみ閲覧可）

4 成果（○）と課題（△）

○場の設定の工夫により、児童が自分の課題や目標に応じて、場を選んで練習することができた。

○「わたしたちの体育」で技のポイントを意識させることで、「みる」視点も絞ることができ、多くの児童がアドバイスや相談ができるようになった。

△活動場所や活動内容が多岐に渡るため、教師の目が行き届かない場面があった。

△一つの技を重点的に練習することはできたが、多くの技への挑戦は難しかった。